



J. C. C. ニュートン第3代院長ご子孫、アリシアさんを迎えて

学院史編纂室 池田裕子

「私の名前はアリシアです。ノースカロライナから来ました。17歳です」。ニュートン第3代院長(1848-1931)の曾孫エモリー・アンダーウッドさんの孫娘アリシア・アンダーウッドさんは、高等部の生徒を前に、日本語で堂々と自己紹介されました。その姿を教室の後ろから見守っていた私は、「日本語が下手なことで有名だったニュートン院長の子孫が…」と、感無量でした【写真上:高等部1年H組松井久博先生のホームルーム、背の高い方がアリシアさん】。

私がアリシアさんを知ったのは3年前のことでした。祖父母から聞いた日本と関西学院の話にすっかり魅せられた14歳のアリシアさんは、独学で日本語の勉強を始められました。そして、「日本に行きたい。将来は日本で勉強したい」と、日本語交じりの可愛いメールが送られて来ました。

私は、関西学院の英文ウェブサイトのアリシアさんに紹介しました。そして、「留学を決める前に一度日本を見ておきませんか? 17歳になったら、ご両親の許可をもらって、遊びに来てください」と返事しました。アリシアさんはしっかり日本語の勉強を続け、本当にやって来たのです。我が家に預かるということで、ご両親は初めての海外旅行(友人のアンナさんと二人旅)を許可されました。

2人は、ローリー・ダーラムからワシントンDC、そこから成田に飛び、6月26日午後6時半、伊丹空港に到着しました。帰りは、7月3日午後4時40分に関空からサンフランシスコへ、国内線でシカゴを経てローリー・ダーラムと、17歳の少女にとっては飛行機の乗り継ぎだけでも大冒険だったと思います。

1週間の滞在中、京都、奈良、姫路、神戸をご案内しましたが、2人が一番楽しみにしていたのは関西学院訪問でした。6月28日朝、高等部で枝川豊高等部長の歓迎を受けた後、松井久博先生の至れり尽くせりのご案内で、チャペル、英語の授業、アッセンブリー、ホームルームに参加させていただきました。石森圭一前高等部長、黒田映子さんを始め教職員の方々が2人に声をかけてくださいました。午後からはニュートンと縁の深い神学部(初代神学部長)と大学図書館(ニュートンがアメリカから持ち込んだ本でいっぱいのトランクが始まり)にも、足を運びました【写真右上:ニュートン院長の肖像画の前で、大学図書館の安本裕和さん、魚住英子さんと】。



アリシアさんは、繊細で礼儀正しく聡明なお嬢さんでした。来日前にお箸を購入し、使い方を練習したそうです。京都の白河院に泊った時、夕食に出た焼き魚を上手にほぐして口に運んでおられました。途方に暮れる友人のアンナさんの魚まで、食べやすいようほぐしてあげていました【左:アンナさん、右:アリシアさん、神学部チャペルにて、撮影:香山宗裕さん】。

「関西学院の人たちは私たちをととても温かく迎え入れてくださいました。…日本は素晴らしいです」と、帰国後お礼のメールが送られてきました。大学生になったら、Great-great-great-grandfather が院長を務めた関西学院をきっと再訪してくれることでしょう。



『学院史編纂室便り』第44号(2016年12月10日)
関西学院大学 学院史編纂室 〒662-8501 西宮市上ヶ原 1-1-155
TEL: 0798-54-6022 FAX: 0798-54-6462
<http://museum.kwansei.ac.jp/archives/>